

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第 32 週の発生動向

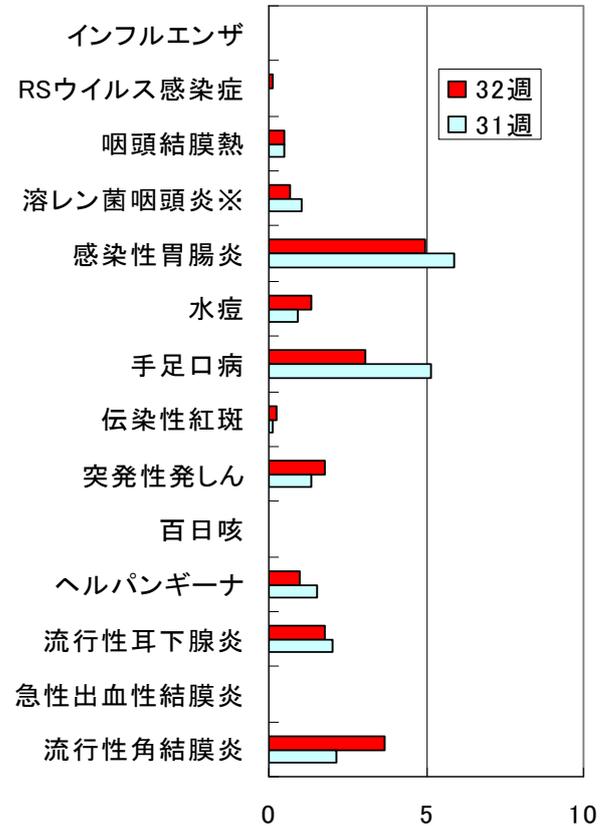
定点医療機関からの報告総数は 579 人（定点あたり 19.1）で、前週比 91%と減少した。

例年に比べ多かった主な疾患は手足口病と流行性耳下腺炎であった。

手足口病の報告数は 111 人（3.1）で前週比 60%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値（1.9）と比較すると約 1.7 倍である。日向（5.5）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 65 人（1.8）で前週比 90%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値（1.6）と比較すると約 1.1 倍である。延岡（6.0）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 5 歳で全体の約 7 割を占めた。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
手足口病	5	3.1	日向(5.5)	1歳～3歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	1.8	延岡(6.0)	1歳～5歳で全体の約7割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：結核 7 例が延岡（3 例）、都城（2 例）、宮崎市・小林（各 1 例）保健所から報告された。
- 《宮崎市保健所》・40 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。
- 《都城保健所》・50 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱、喀血がみられた。
・70 歳代の男性で疑似症患者。咳、発熱がみられた。
- 《延岡保健所》・30 歳代の男性で無症状病原体保有者。
・30 歳代の女性で無症状病原体保有者。
・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。
- 《小林保健所》・70 歳代の女性で疑似症患者。咳がみられた。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3 例が宮崎市・延岡・中央（各 1 例）保健所から報告された。
- 《宮崎市保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は O157（VT2 産生）。
- 《延岡保健所》・10 歳代の女児で腹痛、水様性下痢がみられた。原因菌の血清型は O157（VT2 産生）。
- 《中央保健所》・20 歳代の男性で無症状病原保有者。原因菌の血清型は O91（VT1、VT2 産生）。
- 4 類感染症：日本紅斑熱 2 例が宮崎市保健所から報告された。
- ・30 歳代の男性で発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常がみられた。
・30 歳代の女性で発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常がみられた。
- 5 類感染症：報告なし。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

細菌（平成 22 年 8 月 3 日～8 月 16 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日
腸管出血性大腸菌(O91:HUT VT1)	0～4	女	7.29	水様性下痢	便	8.4
腸管出血性大腸菌(OUT:H18 VT1)	70代後半	女	7.2	無症状	便	8.4
<i>Salmonella</i> Saintpaul (O4:e,h:1,2)	5～9	女	8.2		便	8.10
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	5～9	女	8.5	発熱(38.6℃)、熱性けいれん、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	8.5
病原血清型大腸菌(O119:HUT)	0～4	男	8.5		便	8.13
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	5～9	女	8.5		便	8.11
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	5～9	男	8.5		便	8.11

ウイルス（平成 22 年 8 月 3 日～8 月 16 日までに分離同定）
報告なし。

■ 全国第 31 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 13.5 で、前週比 87%と減少した。今週増加した主な疾患は伝染性紅斑で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと水痘であった。

伝染性紅斑の報告数は 1,126 人 (0.37) で、前週比 116%と増加した。例年同時期の約 1.2 倍である。千葉県 (0.98)、秋田県・長崎県 (0.91)、三重県 (0.84) からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 7,154 人 (2.4) で、前週比 82%と減少した。例年同時期の約 1.3 倍である。新潟県 (8.8)、福井県 (7.2)、宮崎県 (5.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 315 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 6 例、腸管出血性大腸菌感染症 167 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 2 例、デング熱 10 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 2 例、ライム病 1 例、レジオネラ症 15 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 17 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 11 例、梅毒 8 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風疹 1 例、麻疹 11 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第32週(08月09日～08月15日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数		5	1	1	1					2	
	定点あたり	0.00	0.14	0.10	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	17	17	1	4	3	6	1	1		1	
	定点あたり	0.47	0.47	0.10	0.67	0.75	2.00	0.33	0.25	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	38	24	7	1	10		1	1	1	1	2
	定点あたり	1.06	0.67	0.70	0.17	2.50	0.00	0.33	0.25	1.00	0.25	2.00
感染性胃腸炎	報告数	213	179	28	38	23	9	37	15		29	
	定点あたり	5.92	4.97	2.80	6.33	5.75	3.00	12.33	3.75	0.00	7.25	0.00
水痘	報告数	34	48	14	12	11	3	1	5		1	1
	定点あたり	0.94	1.33	1.40	2.00	2.75	1.00	0.33	1.25	0.00	0.25	1.00
手足口病	報告数	185	111	35	12	14	8	1	16	2	22	1
	定点あたり	5.14	3.08	3.50	2.00	3.50	2.67	0.33	4.00	2.00	5.50	1.00
伝染性紅斑	報告数	5	8		7			1				
	定点あたり	0.14	0.22	0.00	1.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	49	65	22	5	14	6	3	4	1	5	5
	定点あたり	1.36	1.81	2.20	0.83	3.50	2.00	1.00	1.00	1.00	1.25	5.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	56	35	3	3	7	9		5		8	
	定点あたり	1.56	0.97	0.30	0.50	1.75	3.00	0.00	1.25	0.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	72	65	14	3	24	2			1	20	1
	定点あたり	2.00	1.81	1.40	0.50	6.00	0.67	0.00	0.00	1.00	5.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	22	17	5							
	定点あたり	2.17	3.67	5.67	2.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

* 第31週の報告数に一部変更があります。

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第32週)

2類感染症	結核	124例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	31例(3)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
	日本紅斑熱	3例(2)	マラリア	2例	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	3例	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

マダニに注意しましょう（8月9日～8月15日）

日本紅斑熱（にほんこうはんねつ）の報告が2例ありました。この病気は病原体を持っているマダニに刺されて2～8日後に発病する感染症で、高熱や全身の発疹、吸血された箇所の刺し口（かさぶた）が特徴です。大変似た感染症につつが虫病がありますが、つつが虫病よりも重症化することが多いようです。ヒトからヒトへの感染はありません。

県内では、毎年春から秋にかけて患者の発生が報告されています。田畑や山林での作業、山歩き、山菜採り、河川敷での魚釣りなどで感染がみられます。

野山や畑、草むらなど、ダニの生息場所に出かけるときには、長袖、長ズボン、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしましょう。また、露出部分には防虫スプレーを使用する事をおすすめします。草むらや地面に直接座つての休憩や、衣服の直置きはやめ、帰宅後はすぐに入浴し、体に付いたダニを落とし、新しい服に着替えましょう。

もし、皮膚にダニがついていたら医療機関でとってもらいましょう。無理にとろうとして潰すと、刺された口の部分から病原体が体の中に注入されてしまいますので注意しましょう。